

2017年4月26日

経済レポート

グラフで見る関西経済(2017年4月)

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

【今月の景気判断】

関西経済は緩やかに持ち直している。生産、輸出は持ち直している。雇用環境をみると、有効求人倍率が高水準で推移し、緩やかに持ち直しているが、賃金は横ばい圏で推移している。個人消費は横ばい圏で推移している。住宅着工は、横ばい圏で推移している。設備投資は、製造業を中心に持ち直しの動きが見られる。公共投資は、基調は増加しているが足下で減少している。先行きについては、海外経済が緩やかな回復基調をたどる中、輸出、生産の持ち直しが続くと思込まれる。個人消費や住宅投資など家計部門は横ばい圏での推移となろう。関西経済は緩やかな持ち直しが見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	↗	輸出	↗	☁	↗
個人消費	→	☁	→	輸入	→	☁	→
住宅投資	↗	☁	→	生産	↗	☁☀	↗
設備投資	↗	☁☔	↗	雇用	↗	☁	→
公共投資	↗	☁	↗	賃金	→	☔	→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シェード部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～朝鮮半島情勢、英国のEU離脱問題、欧州選挙、トランプ政権の政策などの行方
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、設備投資、インバウンド消費の先行き
- ・政策～金融政策の今後の展開、2016年度補正予算の効果
- ・家計～賃金の改善状況、物価動向の家計消費への影響、資産価格変動の影響

～本レポートについては最終ページ「グラフで見る関西経済」の見方」参照

【各項目のヘッドライン】

項目	3月のコメント	4月のコメント	ページ
1. 景気全般	持ち直しの動きが見られる	緩やかに持ち直している	3~4
2. 生産	緩やかに持ち直している	持ち直している	5~7
3. 雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	8~9
4. 賃金	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	9~10
5. 個人消費	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移している	11~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	13~14
7. 設備投資	製造業を中心に持ち直しの動きが見られる	製造業を中心に持ち直しの動きが見られる	14~16
8. 公共投資	基調は増加しているが、足下で減少	基調は増加しているが、足下で減少	16~17
9. 輸出入	輸出、輸入ともに横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	18~19
10. 物価	横ばい	横ばい	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は増加、負債総額は減少	20

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(※) 参考資料:「グラフでみる景気予報」 → <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

1. 景気全般

生産、輸出が持ち直している。

2. 生産

2月の近畿地区の鉱工業生産(速報)は、前月比+1.2%と2ヶ月ぶりに増加し、昨年中頃から増加ペースが高まっている。

5. 個人消費

スーパーや家電販売は減少しているが、足下で百貨店売上、自動車販売、消費者マインドが改善している。

9. 輸出入

3月の近畿地区の実質輸出は前月比-8.4%と2ヶ月ぶりに減少したが、均してみると持ち直している。

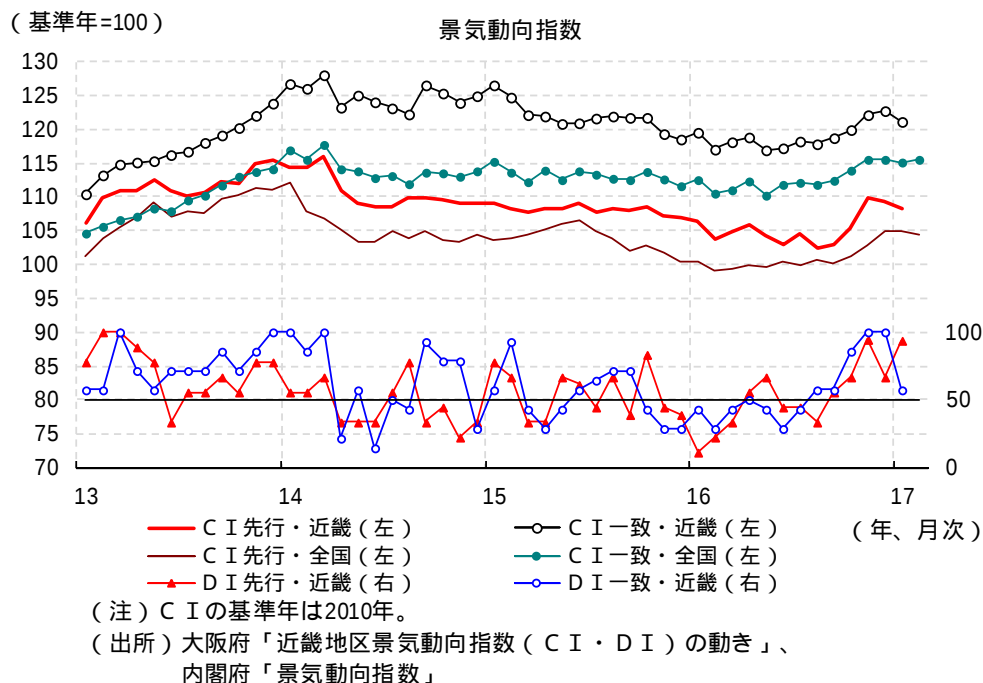
【主要経済指標の推移】

経済指標		16	16	16	16	17	16	16	16	17	17	17	
		1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	10	11	12	1	2	3	
景気全般	景気動向指数（近畿）ＣＩ先行指数（05年=100）	105.0	104.3	103.3	108.1		105.2	109.8	109.4	108.2			
	ＣＩ一致指数（　　）	118.2	117.6	118.2	121.6		119.9	122.1	122.7	121.1			
	ＤＩ先行指数（％ポイント）	22.2	55.6	44.4	75.9		66.7	94.4	66.7	93.8			
	ＤＩ一致指数（　　）	38.1	40.5	52.4	95.2		85.7	100.0	100.0	57.1			
	景気ウォッチャー調査　現状判断ＤＩ（　　）	44.7	41.1	45.4	51.3	49.8	47.3	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	
	（近畿、季節調整値）　先行判断ＤＩ（　　）	46.0	42.7	47.0	50.0	49.2	48.7	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6	
	日銀短観（近畿）業況判断ＤＩ　製造業（％ポイント）	-3	-2	0	3	8	3	<6月予想>					

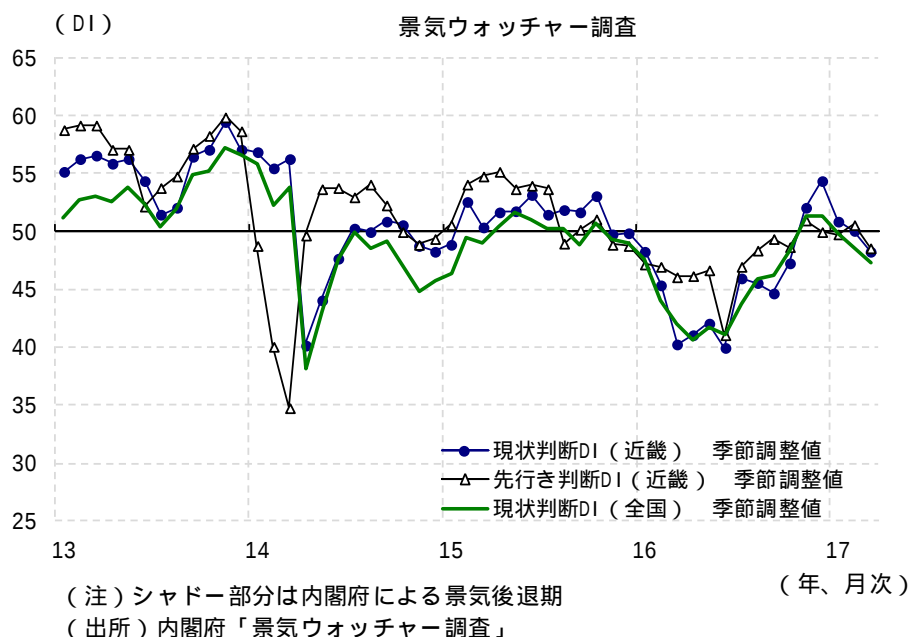
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 緩やかに持ち直している

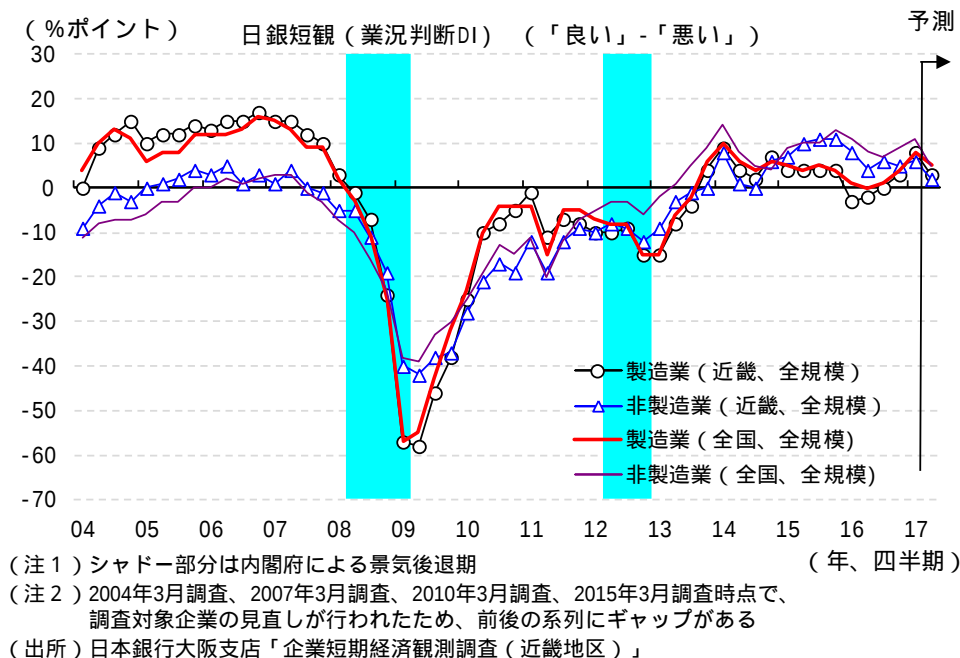
- 1月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は前月差 - 1.6ポイントの121.1と5ヶ月ぶりに低下した。採用7系列のうち、鉱工業生産指数、有効求人倍率、所定外労働時間数(製造業)など6系列がマイナスに寄与した。一方、C I先行指数は同 - 1.2ポイントの108.2と2ヶ月連続で低下した。採用系列9つのうち、鉱工業在庫率指数、新規求人数、乗用車新車販売台数など4系列がマイナスに寄与した。



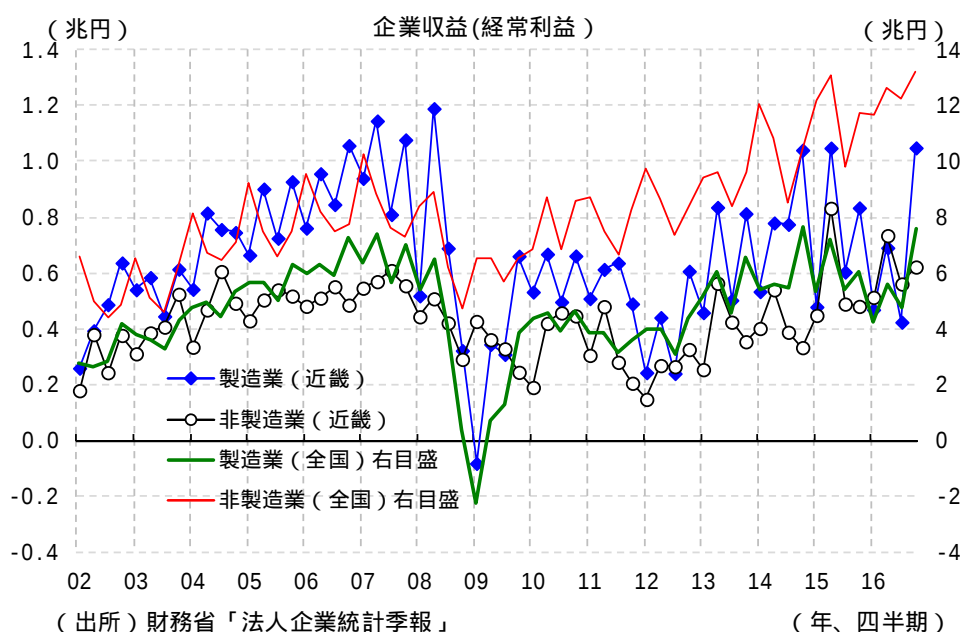
- 景気ウォッチャー調査によると、3月の近畿地区の現状判断D I(季節調整値)は前月差 - 1.8ポイントの48.3と3ヶ月連続で低下し、全国(47.4)とほぼ同水準となっている。先行き判断D I(季節調整値)については、同 - 2.0ポイントの48.6と2ヶ月ぶりに低下し、全国(48.1)とほぼ同水準となった。



- 日銀短観3月調査によると、近畿地区の業況判断D I（「良い」-「悪い」）は全産業(全規模)で+7と前回12月調査から3ポイント改善した。製造業（全規模）は+8と12月調査から5ポイント改善し、非製造業（全規模）は+6と12月調査から1ポイント改善した。規模別では、大企業、中堅企業、中小企業のいずれも12月調査から改善した。先行きについては、製造業、非製造業ともに全規模で小幅悪化が見込まれる。

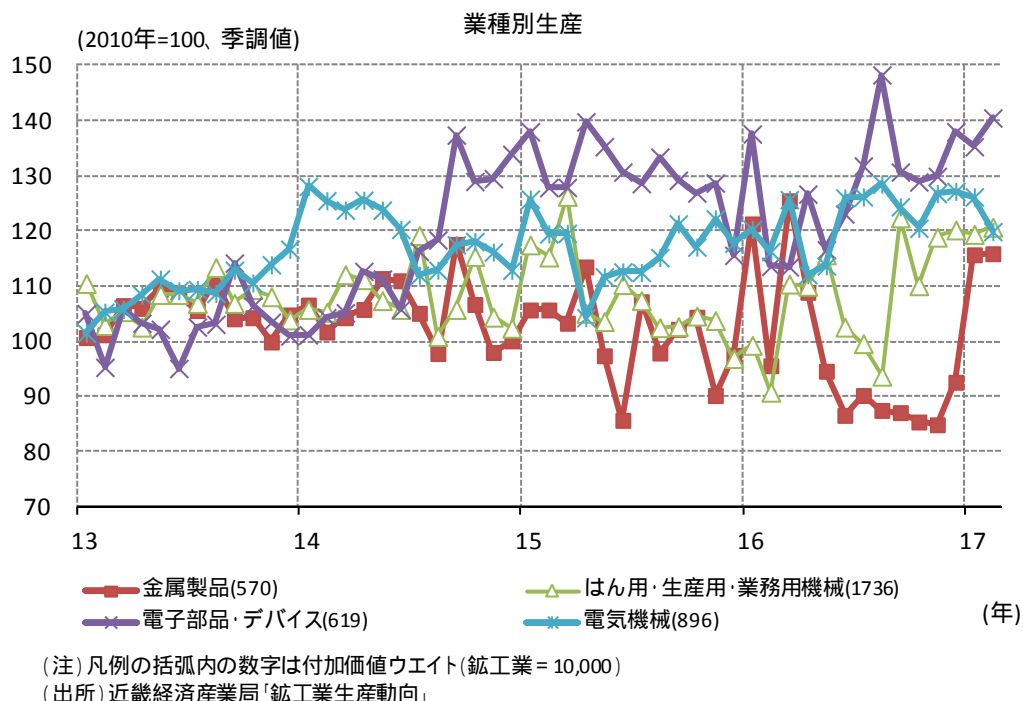
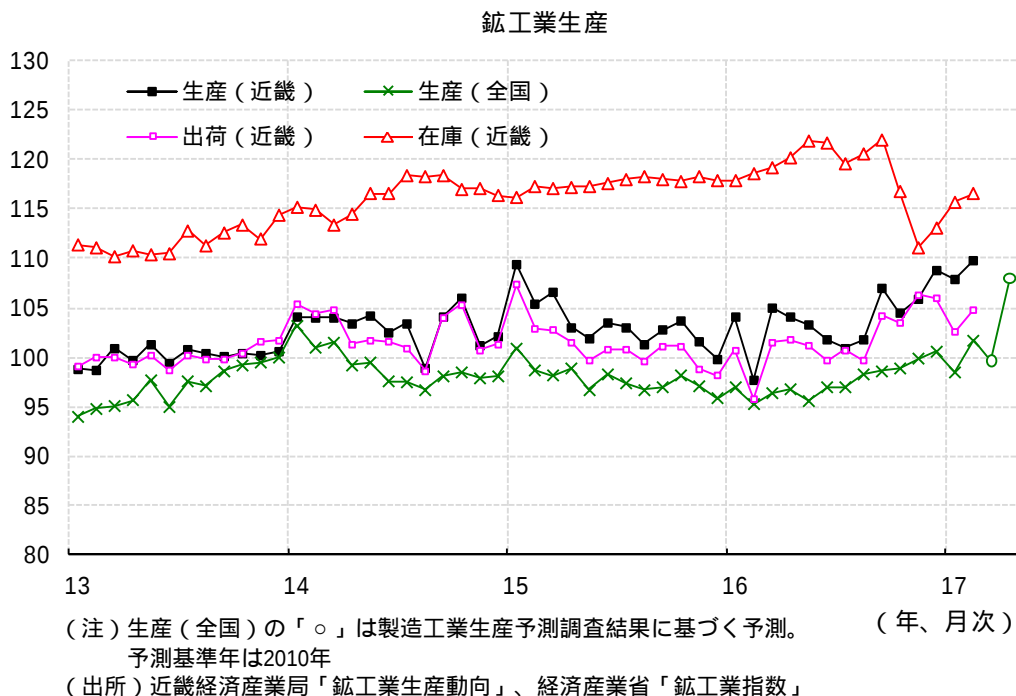


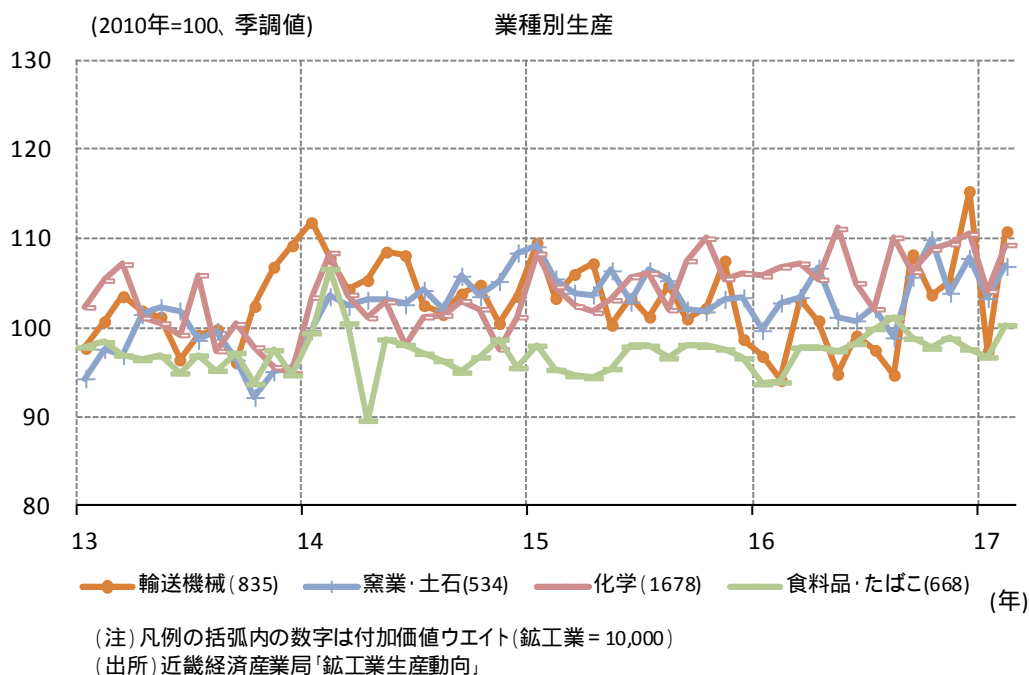
- 2016年10～12月期の近畿地区の大企業の経常利益（全産業）は、前年比+27.1%と三四半期ぶりに増加した。製造業は同+25.8%と六四半期ぶりに増加し、非製造業は同+29.3%と二四半期連続で増加した。日銀短観3月調査では、16年度の経常利益は全産業で同-12.4%、製造業で同-16.1%、非製造業で同-6.8%となった。17年度は全産業で同-0.4%、製造業で同0.0%、非製造業で同-0.9%と計画されている。



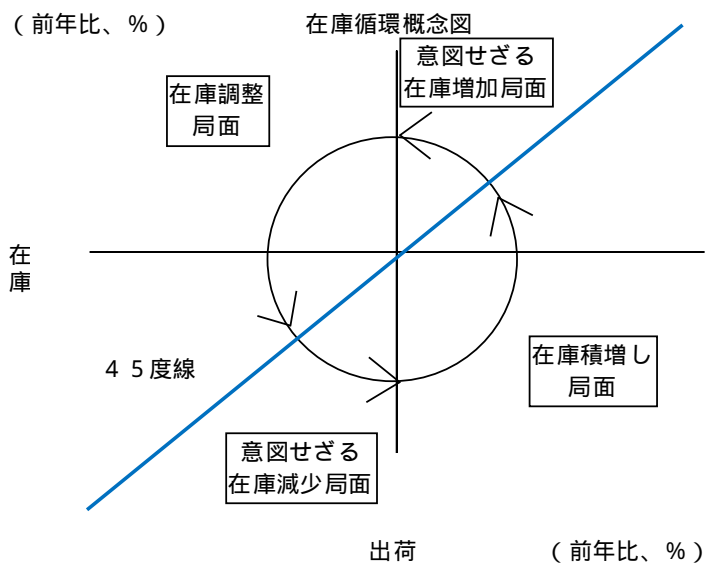
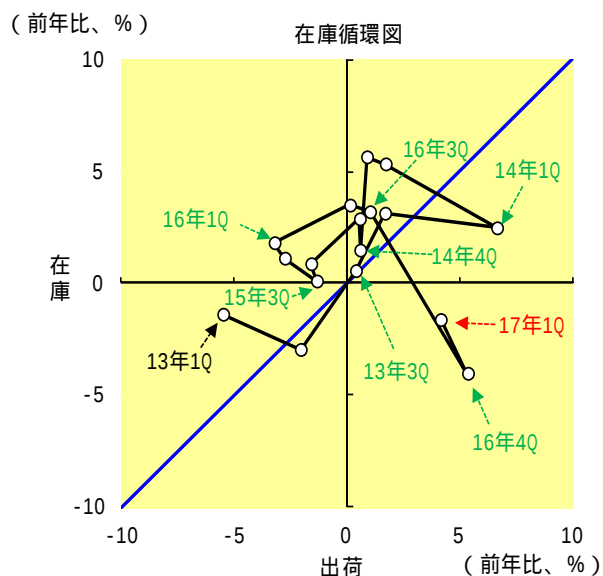
2. 生産 ~持ち直している

○2月の近畿地区の鉱工業生産(速報)は、前月比+1.8%と2ヶ月ぶりに増加となり持ち直している。電気機械、プラスチック製品などが減少したが、化学(除く医薬品)、電子部品・デバイス、はん用・生産用・業務用機械などが増加した。今後の生産についても、世界経済の緩やかな回復が見込まれる中、持ち直しが続くと思込まれる。





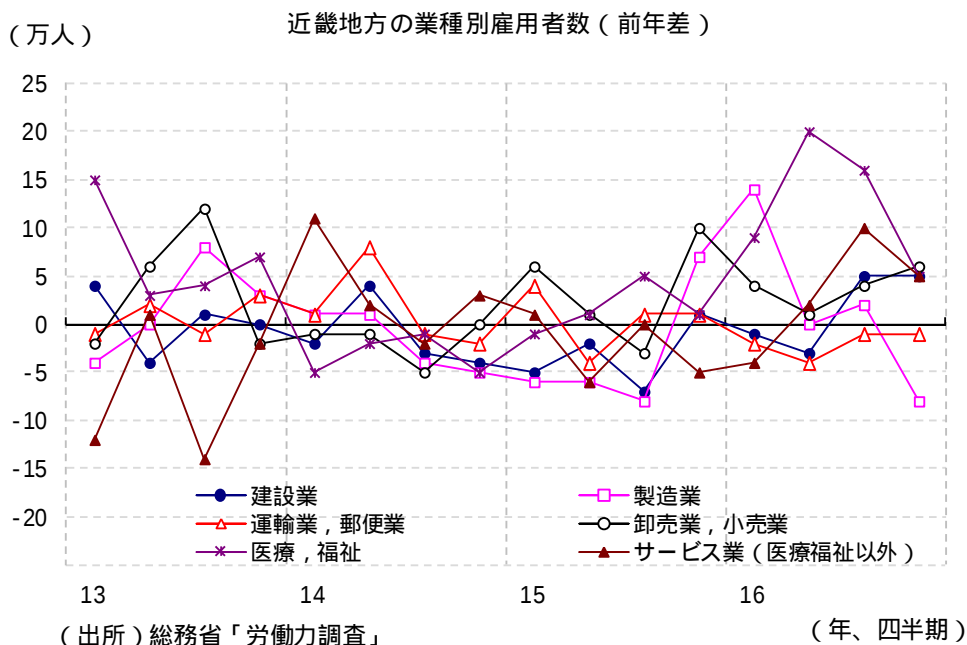
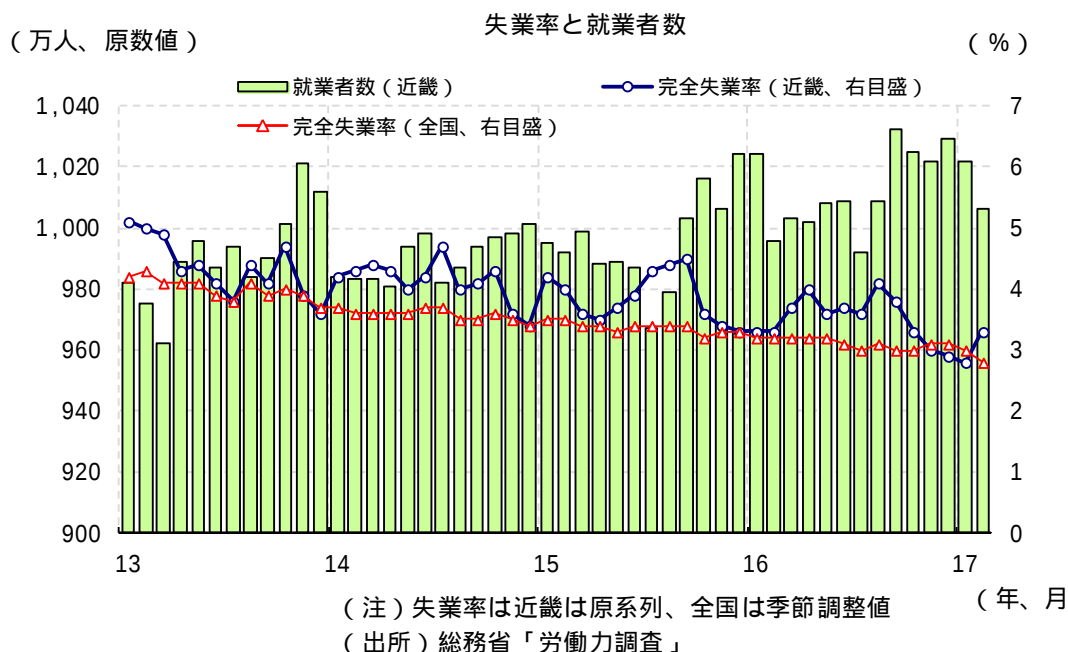
〇2月の近畿地区の鉱工業出荷は前月比+2.1%と3ヶ月ぶりに増加した。金属製品、鉄鋼業などが減少したが、はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、化学(除く医薬品)などが増加した。鉱工業在庫は同+0.8%と3ヶ月連続で増加した。電子部品・デバイス、はん用・生産用・業務用機械、化学(除く医薬品)などが減少したが、鉄鋼業、金属製品、輸送機械(除く航空機・鋼船・鉄道車両)などが増加した。



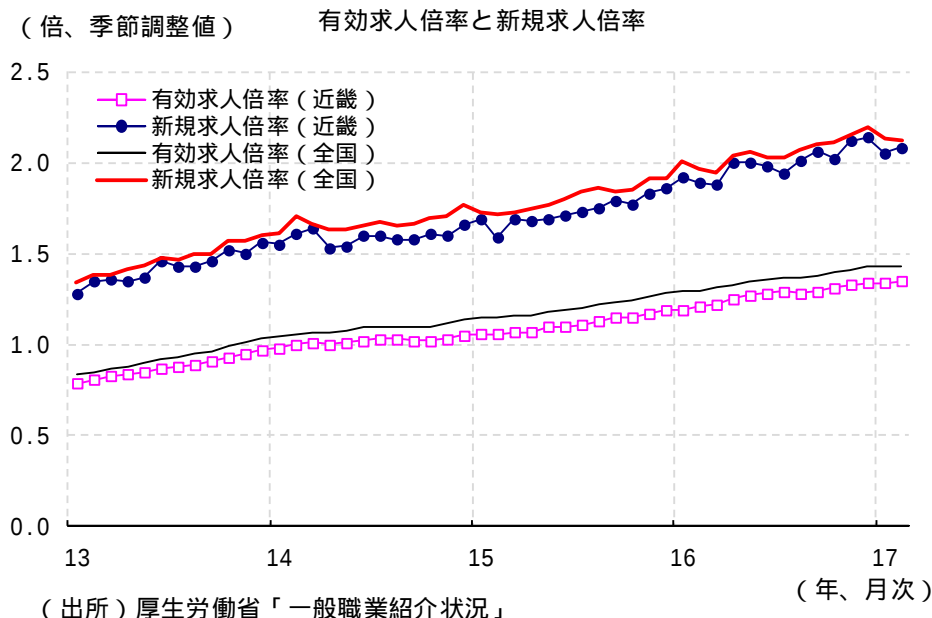
(注) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 直近17年1Qの出荷は1、2月平均、在庫は2月の前年比
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

3. 雇用 ～緩やかに持ち直している

○2月の近畿の完全失業率は前年と同水準の3.3%となった。雇用者数は前年差16万人の増加、就業者数は同10万人の増加、完全失業者数は前年と同水準となった。業種別(10～12月期)に雇用者数をみると、製造業、運輸業・郵便業などが減少する一方、建設業、卸・小売業、医療・福祉、サービス業などが増加した。景気に持ち直しの動きが見られる中、今後の雇用も緩やかな持ち直しが続くと見込まれる。

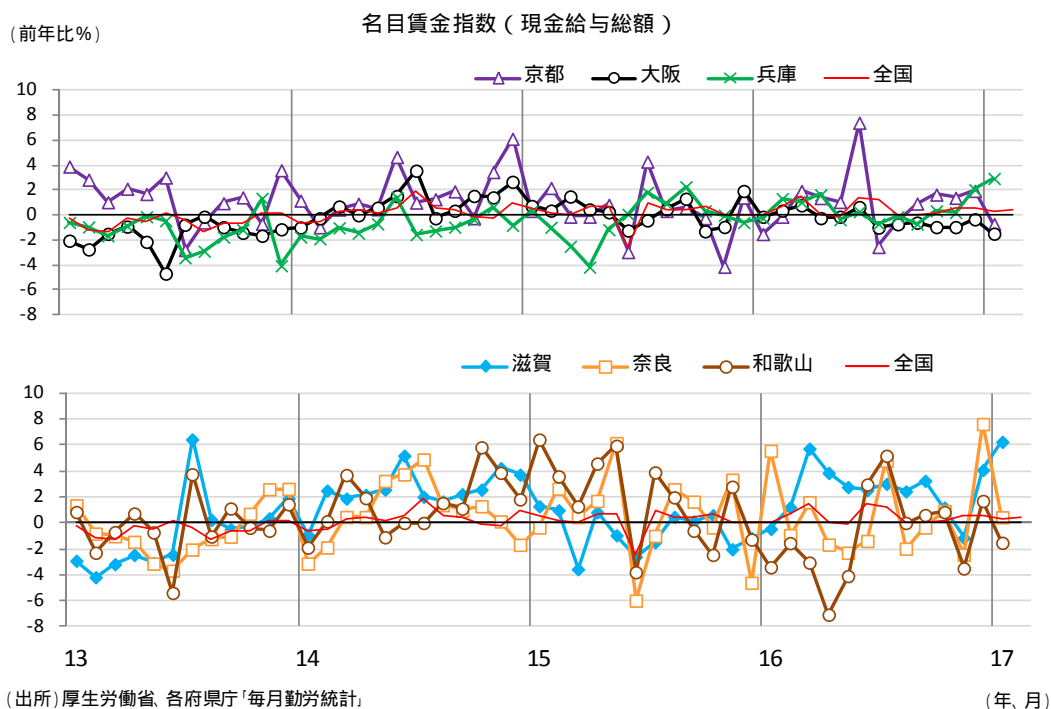


- 2月の近畿圏の有効求人倍率は前月差+0.01ポイントの1.35倍と2ヶ月ぶりに上昇した。有効求人数が同-0.7%と11ヶ月ぶりに減少したが、有効求職者数も前月比-1.1%と2ヶ月ぶりに減少した。また、有効求人倍率に先行する新規求人倍率は前月差+0.03ポイントの2.08倍と2ヶ月ぶりに上昇した。新規求人数は前月比+3.1%と2ヶ月ぶりに増加し、新規求職申込件数は同+1.5%と2ヶ月ぶりに増加した。

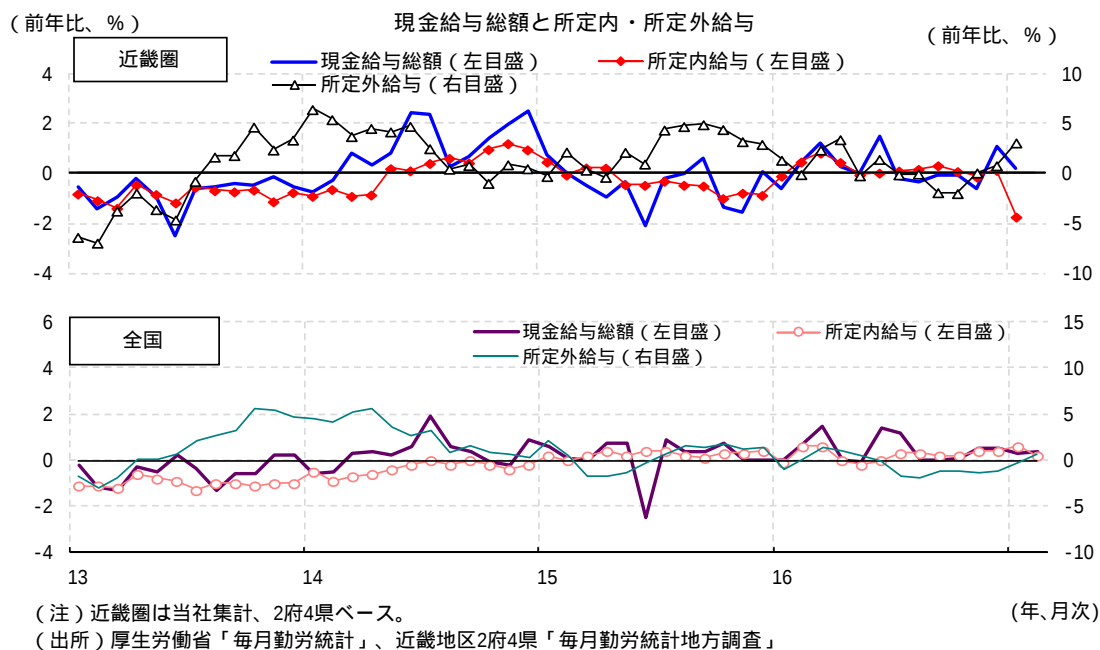


4. 賃金 ~ 横ばい圏で推移している

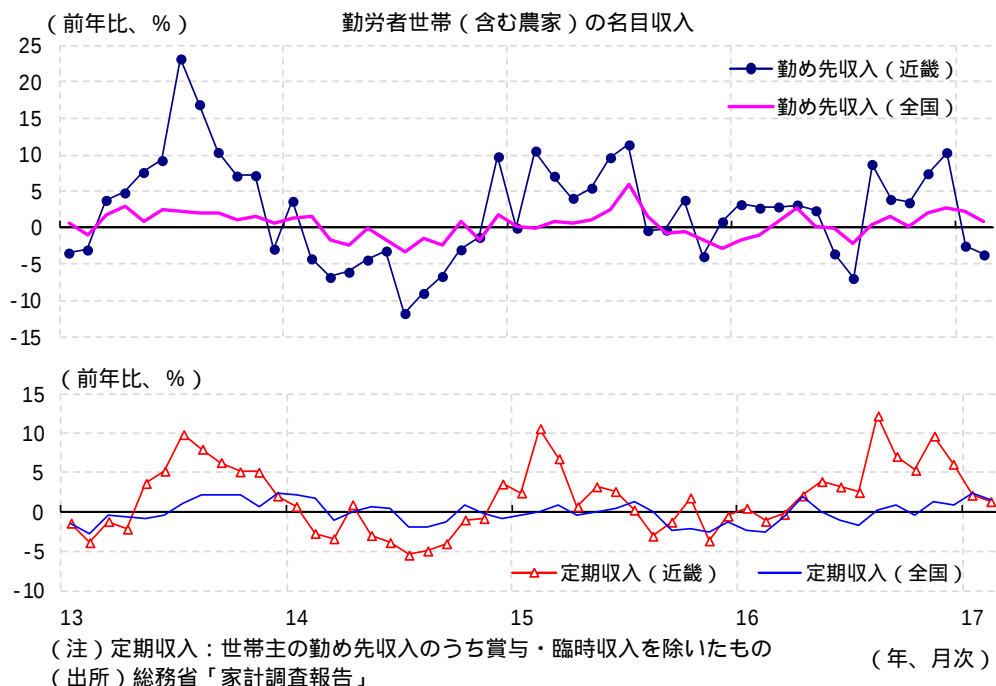
- 1月の名目賃金指数(現金給与総額)は、兵庫(前年比+2.9%)は4ヶ月連続、滋賀(同+6.2%)と奈良(同+0.4%)は2ヶ月連続で上昇した。一方、大阪(同-1.5%)は7ヶ月連続で低下し、京都(同-0.7%)は5ヶ月ぶりに、和歌山(同-1.5%)は2ヶ月ぶりに低下した。関西の賃金は、均してみると横ばい圏で推移している。



- 1月の近畿圏の現金給与総額(加重平均)は前年比+0.2%の26.1万円と2ヶ月連続で増加した。また、定期給与は同+0.1%と2ヶ月連続で増加した。内訳をみると、所定内給与は同-1.7%と2ヶ月ぶりに減少したが、所定外給与が同+3.1%と3ヶ月連続で増加した。

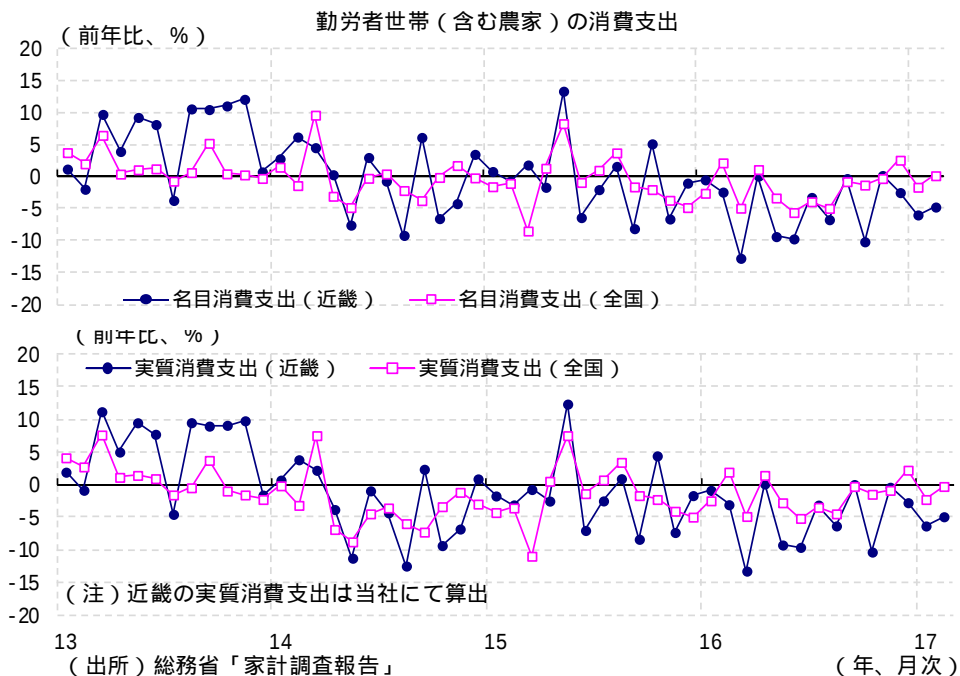


- 家計調査によると、2月の近畿圏の勤労者世帯(含む農家)の勤め先収入は前年比-3.7%の41.4万円と2ヶ月連続で減少した。一方、世帯主の勤め先収入は前年比+1.1%の37.5万円と7ヶ月連続で増加した。世帯主の勤め先収入の内訳をみると、賞与・臨時収入を除いた定期収入は同+1.3%の37.1万円と11ヶ月連続で増加した。

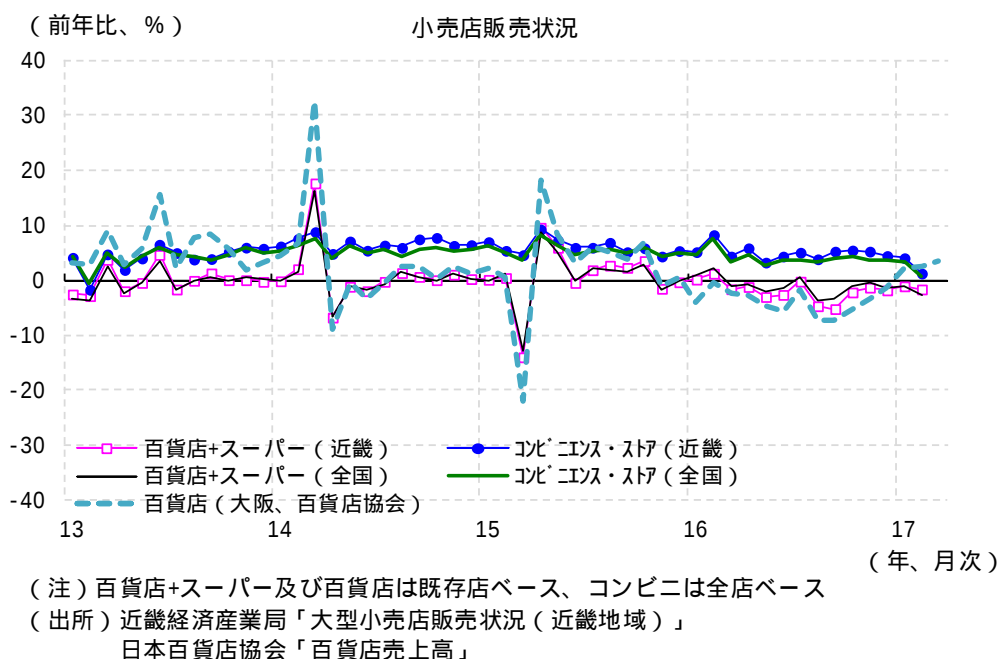


5. 個人消費 ～横ばい圏で推移している

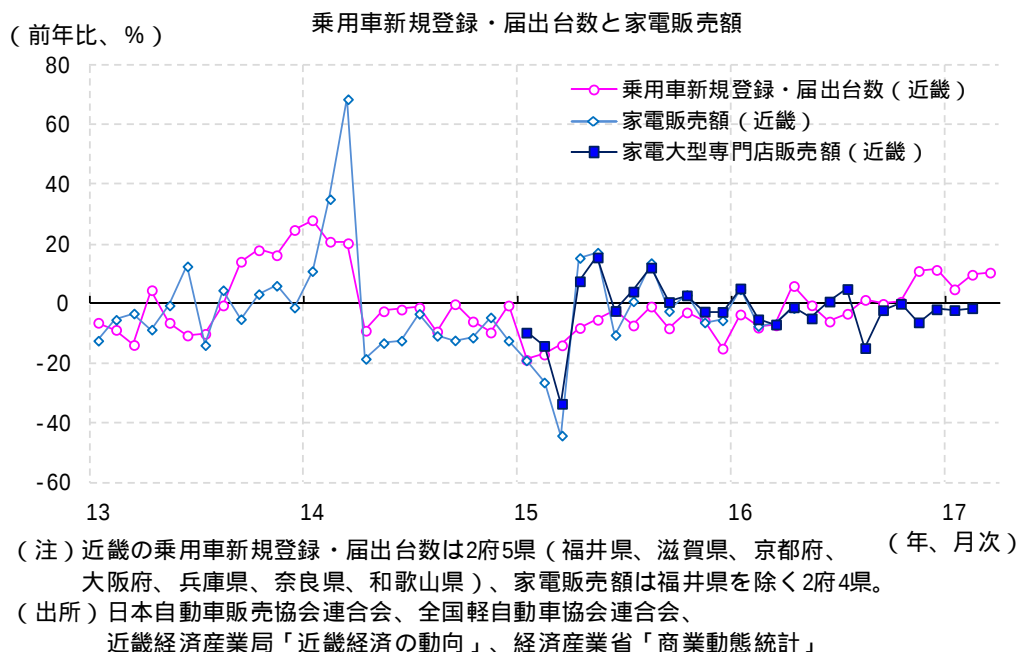
- 家計調査によると、2月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比 - 4.8%と3ヶ月連続で減少し、物価の上昇分を除いた実質でも同 - 4.9%と10ヶ月連続で減少した。関西の個人消費は供給サイドの統計も含めて均してみると、横ばい圏で推移しているものの一部に弱い動きがみられる。今後も、実質所得の持ち直しが限定的となる中、横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



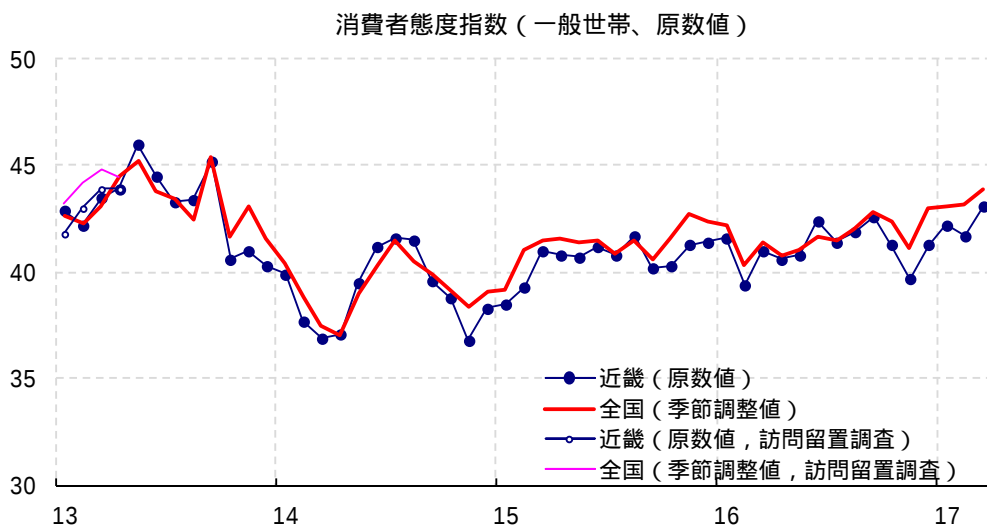
- 2月の近畿地区の大型小売店（百貨店＋スーパー）の販売額は、既存店で前年比 - 1.6%と12ヶ月連続で減少、全店では同 - 1.2%と7ヶ月連続で減少した。コンビニエンス・ストアの販売額（全店）は前年の閏年の反動で伸びが鈍ったものの、同 + 1.3%と48ヶ月連続で増加した。3月の大阪の百貨店売上高（百貨店協会）は、インバウンド売上が引き続き好調に推移する中、同 + 3.4%（店舗調整後）と3ヶ月連続で増加した。



- 3月の近畿地区の乗用車新規登録・届出台数は前年比+10.5%と8ヶ月連続で増加した。普通車は前年比+13.3%と12ヶ月連続で増加し、小型車は同+15.9%と5ヶ月連続で増加、軽自動車は同+2.8%と2ヶ月連続で増加した。府県別では、2府5県全てで増加した。一方、2月の近畿地区の家電大型専門店販売額は、前年比-1.4%と4ヶ月連続で減少した。

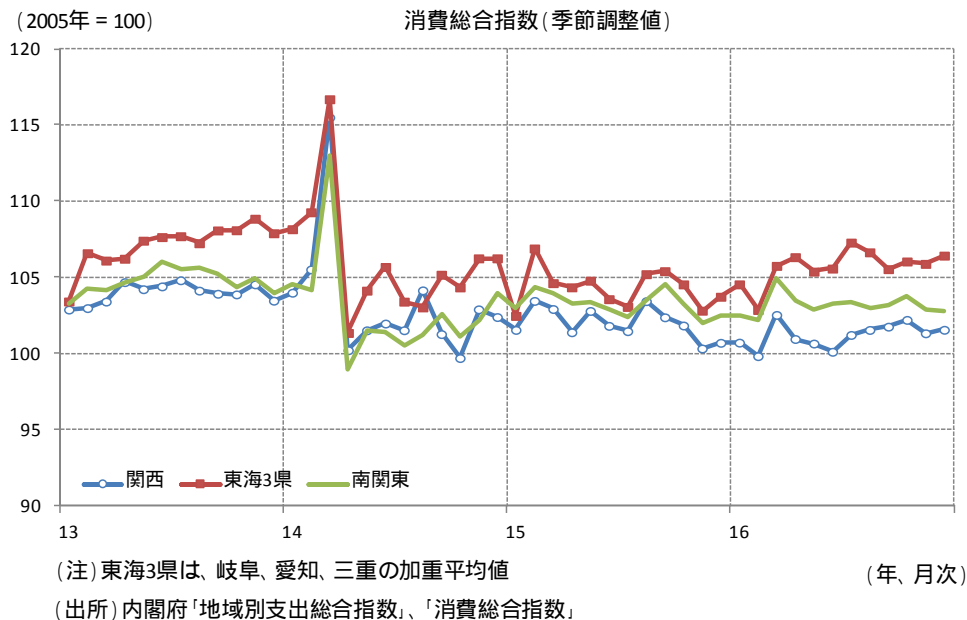


- 消費者マインドを表す消費者態度指数(近畿、一般世帯、原数値)は、3月は前月差+1.4ポイントの43.1と2ヶ月ぶりに上昇した。近畿の消費者マインドは緩やかに持ち直している。今後については、景気に持ち直しの動きが出ているものの、内外情勢の先行き不透明感が続く中で、消費者マインドは横ばい圏での推移が見込まれる。



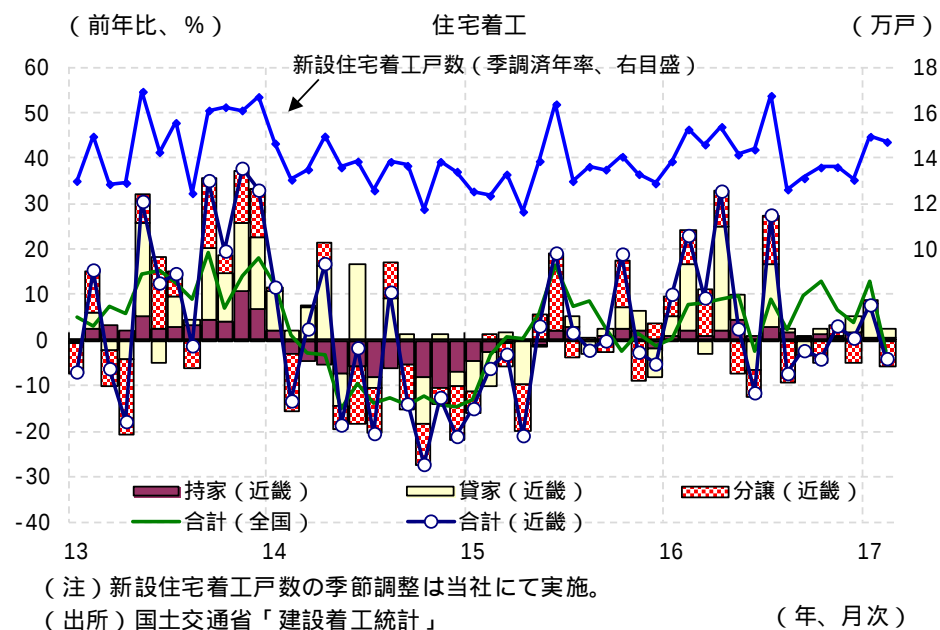
(注) 2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。
郵送調査の2012年7月～2013年3月は試験調査による参考値。
(出所) 内閣府「消費動向調査」

- 内閣府が2月に公表した地域別消費総合指数によると、関西のサービス消費を含む個人消費の動向は、2014年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げて横ばい圏で推移している。

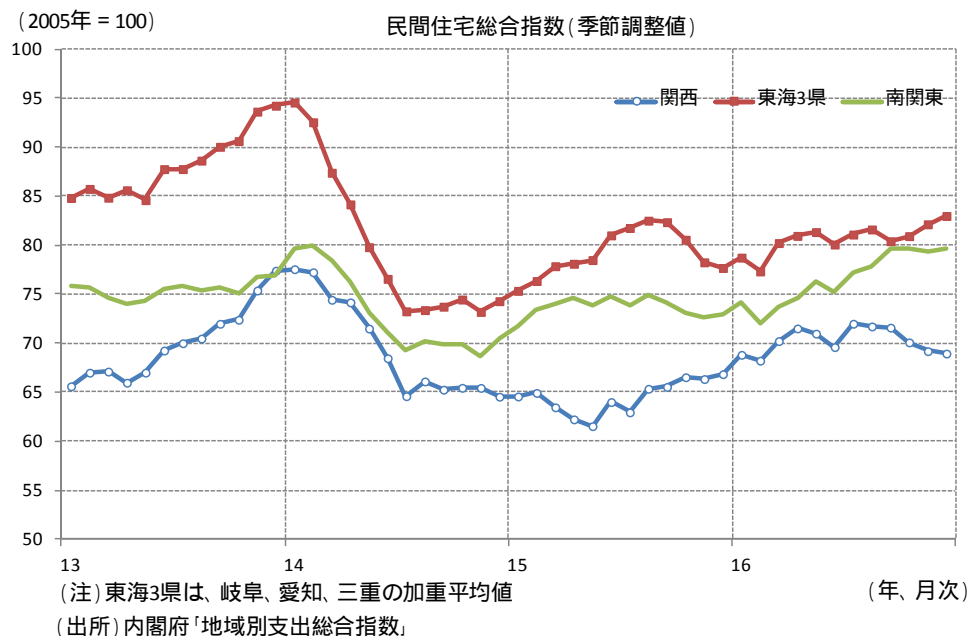


6. 住宅投資 ～横ばい圏で推移している

- 2月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比 - 4.0%の10,639戸と4ヶ月ぶりに減少した。持家は14ヶ月連続、貸家は5ヶ月連続でそれぞれ増加したが、分譲は2ヶ月ぶりに減少した。季調済戸数は年率14.7万戸と2ヶ月ぶりに減少した。近畿の住宅着工は、相続税対策や低金利の影響による持ち直しが一服し、横ばい圏で推移している。先行きについても、横ばい圏での推移が見込まれる。

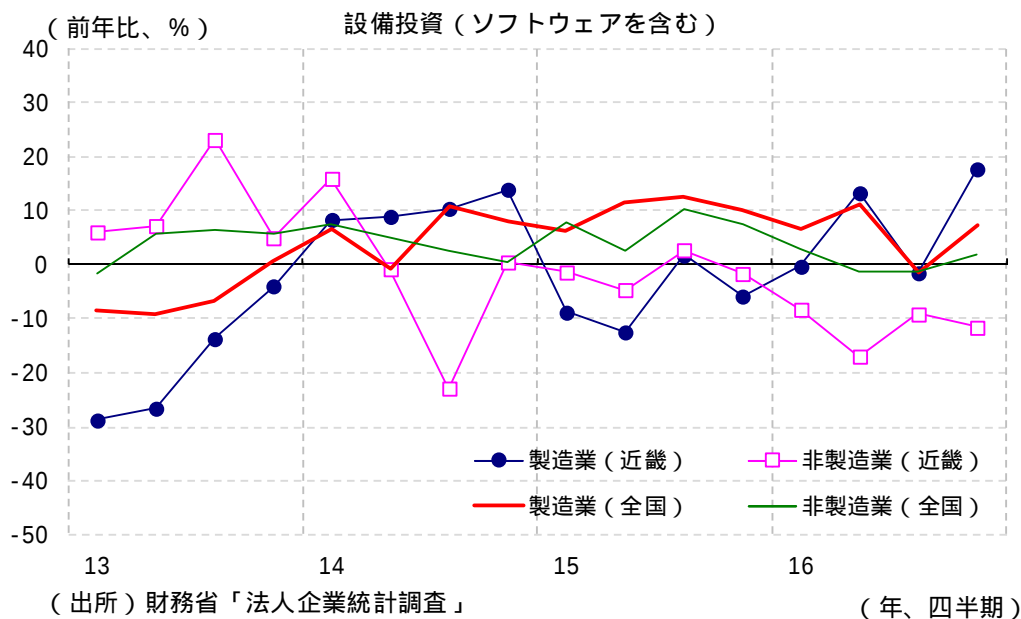


- 内閣府が2月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、関西の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、2014年1月をピークに急速に低下したが、14年7月以降は低下ペースが緩やかとなった。その後、15年半ば以降は上昇基調に転じたが、足下で弱含んでいる。

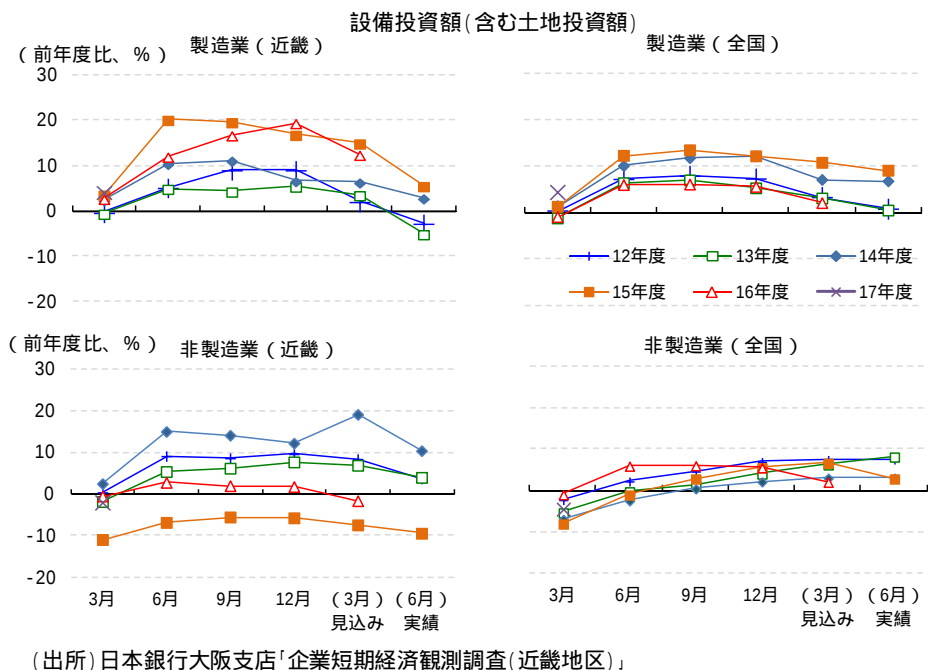


7. 設備投資 ～製造業を中心に持ち直しの動きが見られる

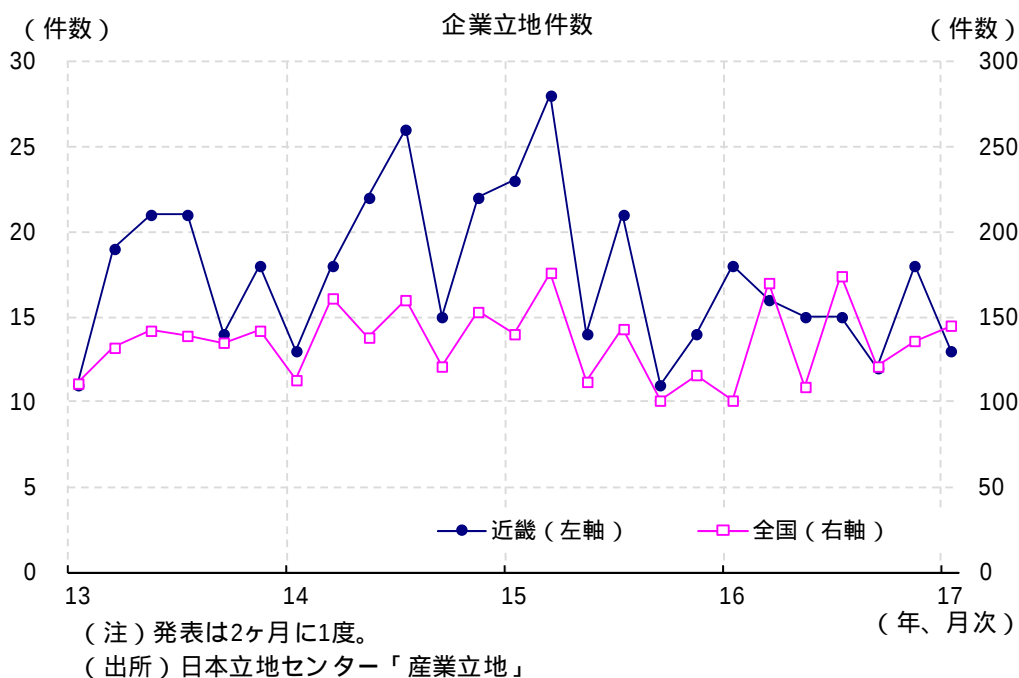
- 2016年10～12月期の関西の大企業の設備投資（ソフトウェアを含む）は前年同期比+1.6%と5四半期ぶりに増加した。内訳をみると、非製造業は同 - 11.6%と5四半期連続で減少したが、製造業は同 + 17.7%と2四半期ぶりに増加した。関西の設備投資は、製造業を中心に持ち直しの動きが見られる。



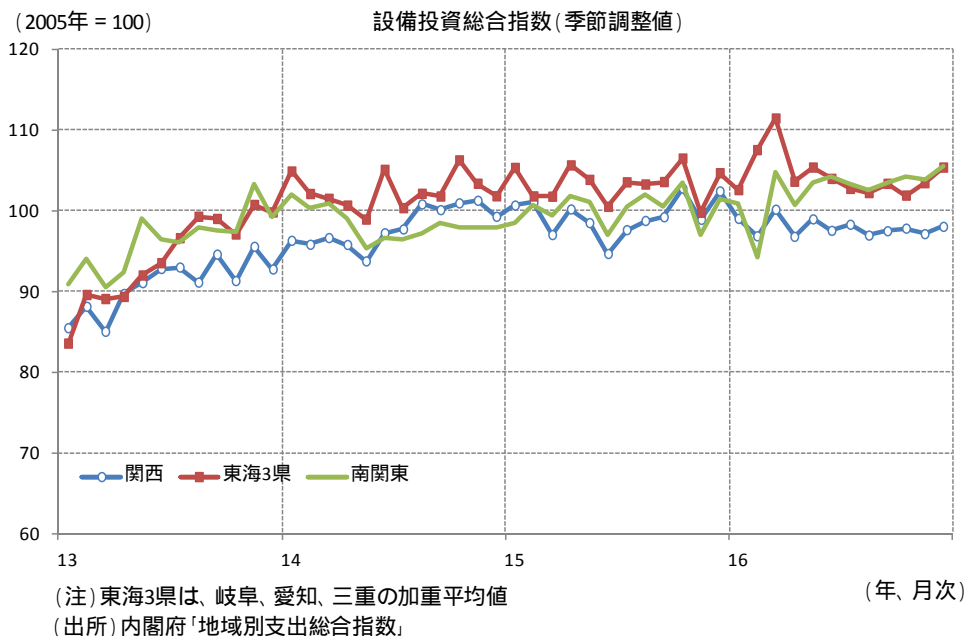
- 日銀短観3月調査によると、関西の16年度の設備投資計画は、全産業は前年比+3.9%となったが、昨年12月調査に比べ下方修正された。内訳を見ると、製造業は同+12.4%と12月調査に比べて下方修正され、非製造業も同-1.7%と12月調査から下方修正され減少計画となった。17年度については、全産業で同+0.6%、製造業で同+4.2%、非製造業で同-2.1%と計画されている。



- 近畿地区の2016年12・17年1月の企業立地件数は13件と、前期(10・11月;18件)を下回り、前年同期(18件)も下回った。近畿地区の企業立地は15年度前半は減少傾向で推移した後、15年度後半以降は横ばい圏で推移している。

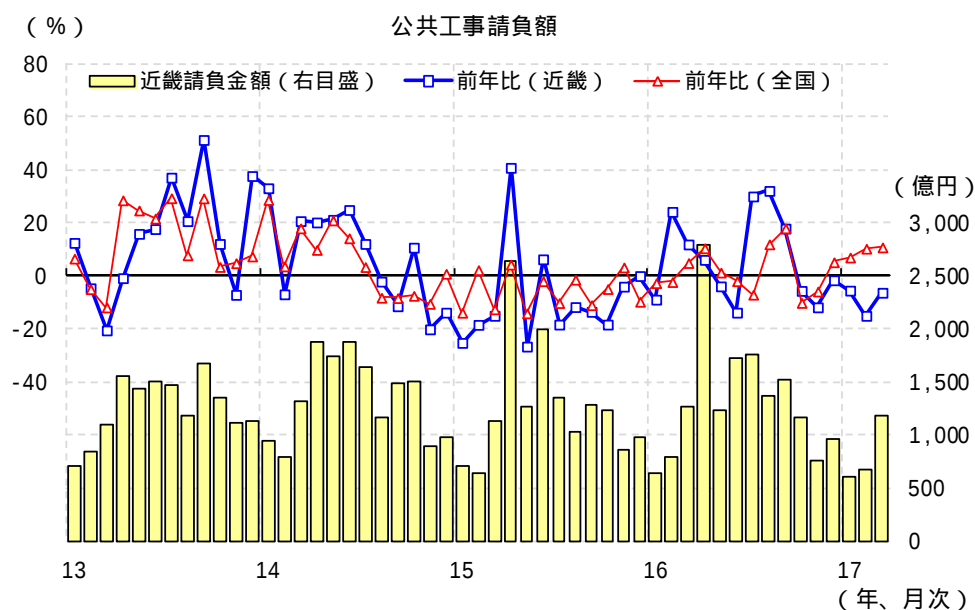


- 内閣府が2月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、関西の民間企業設備投資は、2014年半ば以降は均してみると横ばい圏で推移してきたが、16年に入ってからはやや弱含んでいる。

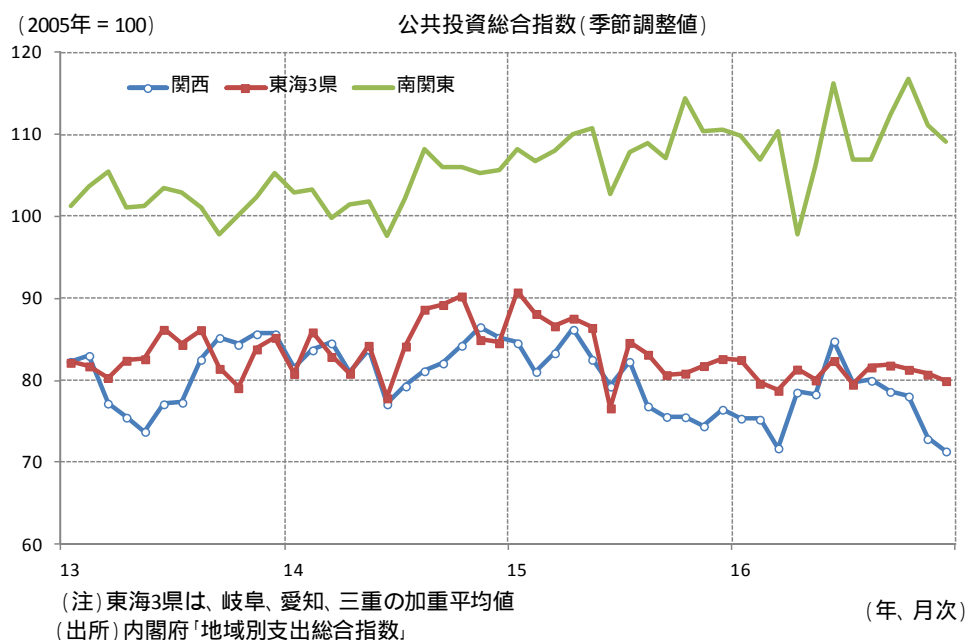


8. 公共投資 ~ 基調は増加しているが、足下で減少

- 3月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比 - 6.2%の1,181億円と6ヶ月連続で減少したが、年度累計の前年比では同 + 2.6%と増加が続いた。府県別(年度累計)では滋賀、奈良、和歌山は減少となったが、京都、大阪、兵庫が増加した。発注者別(同)では、市区町村、地方公社が減少したが、独立行政法人、都道府県、その他が増加、国は同水準であった。先行きは、16年度第2次補正予算の執行などにより増加基調を見込む。

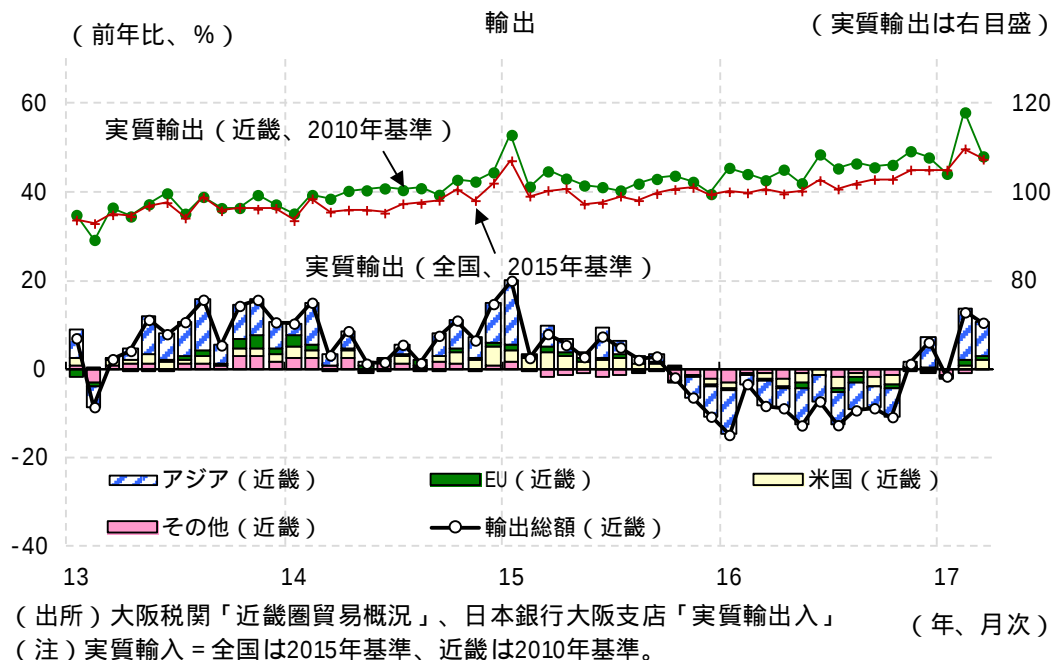


- 内閣府が2月に公表した地域別公共投資総合指数によると、関西の工事進捗ベースでの公共投資は、2015年度に入って以降減少してきた後、16年度に入ってから増加したが、足下では減少している。

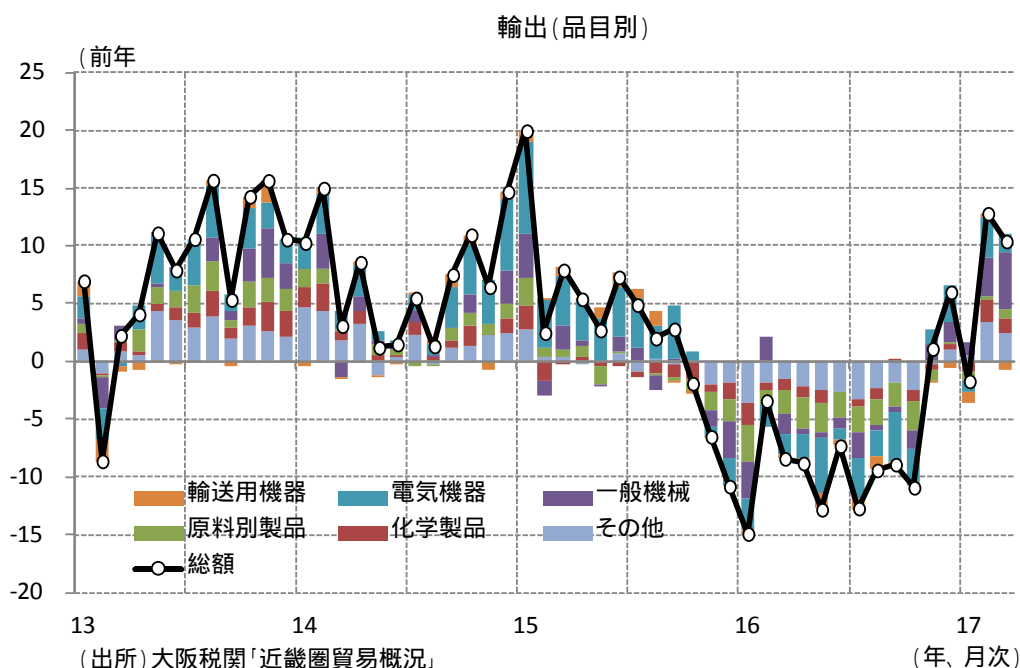


9. 輸出入 ～輸出は持ち直し、輸入は横ばい

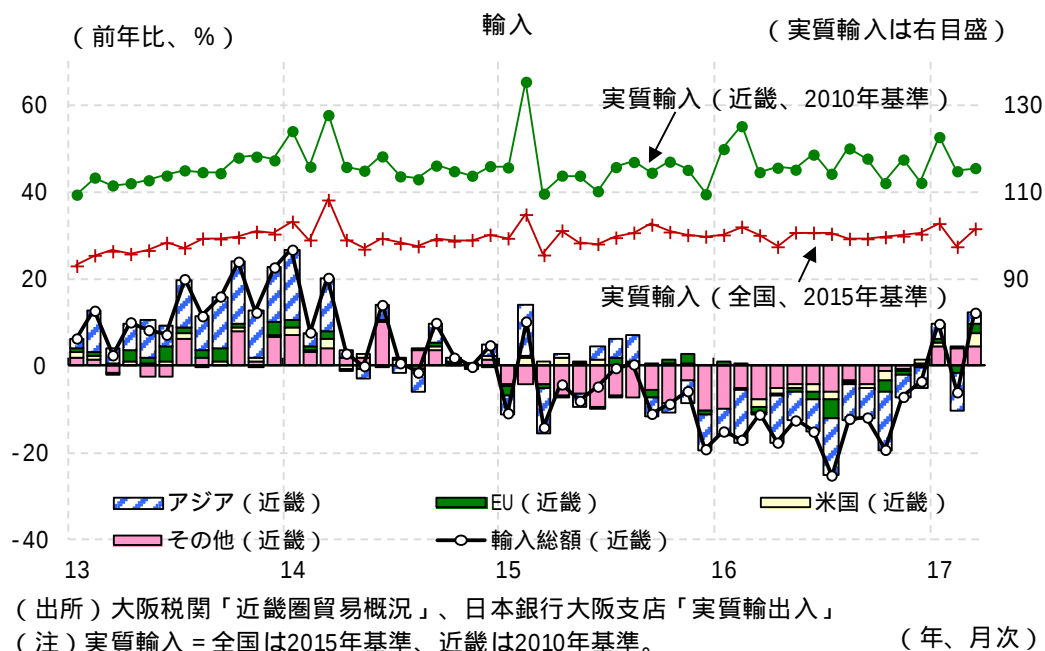
- 3月の近畿地区の実質輸出は前月比 - 8.4%と2ヶ月ぶりに減少したが、均してみると持ち直している。また、17年3月の名目輸出額は前年比 + 10.4%と2ヶ月連続で増加した。地域別では、米国、EU、アジアいずれも2ヶ月連続で増加した。今後については、海外経済の緩やかな回復が続く中、緩やかな持ち直しが見込まれる。



- 3月の名目輸出額を品目別にみると、船舶 (前年比 - 88.1%)、自動車 (同 - 10.6%) などが減少したが、半導体等製造装置 (同 + 86.5%)、科学光学機器 (同 + 32.0%)、電気回路等の機器 (同 + 24.3%) などが増加した。

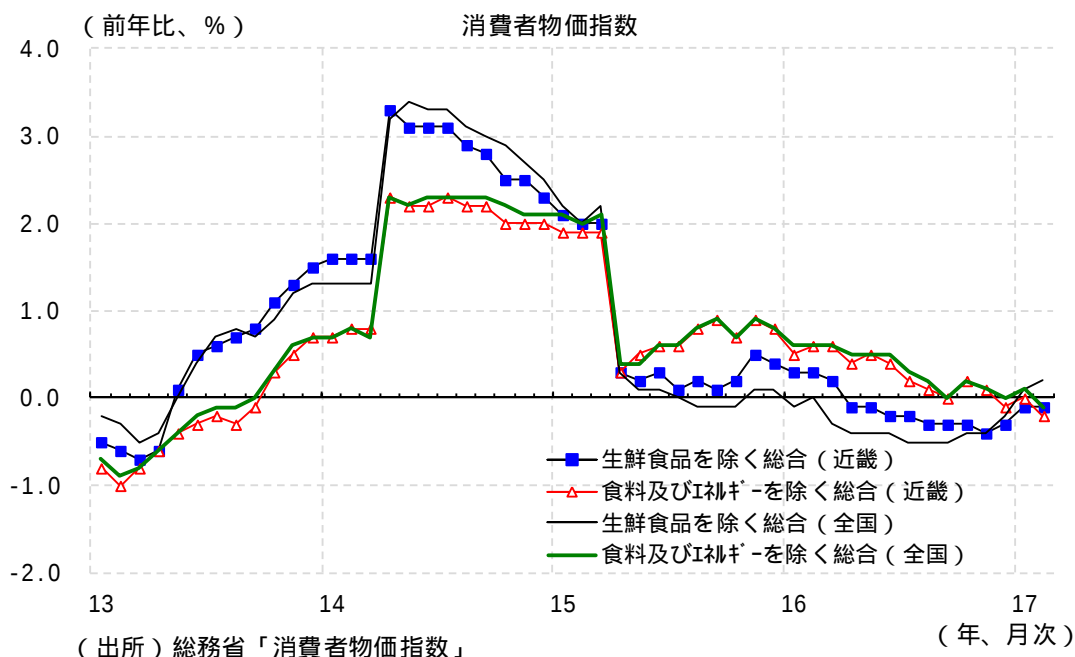


○3月の近畿地区の実質輸入は、前月比+0.6%と2ヶ月ぶりに増加したが、均してみると横ばい圏で推移している。一方、17年3月の名目輸入額は前年比+12.2%と2ヶ月ぶりに増加した。地域別では、米国、アジア、EUいずれも増加した。品目別では、通信機、天然ガス及び製造ガスなどが減少したが、原油及び粗油、石炭などが増加した。今後も、国内需要動向を反映し横ばい圏の推移が見込まれる。



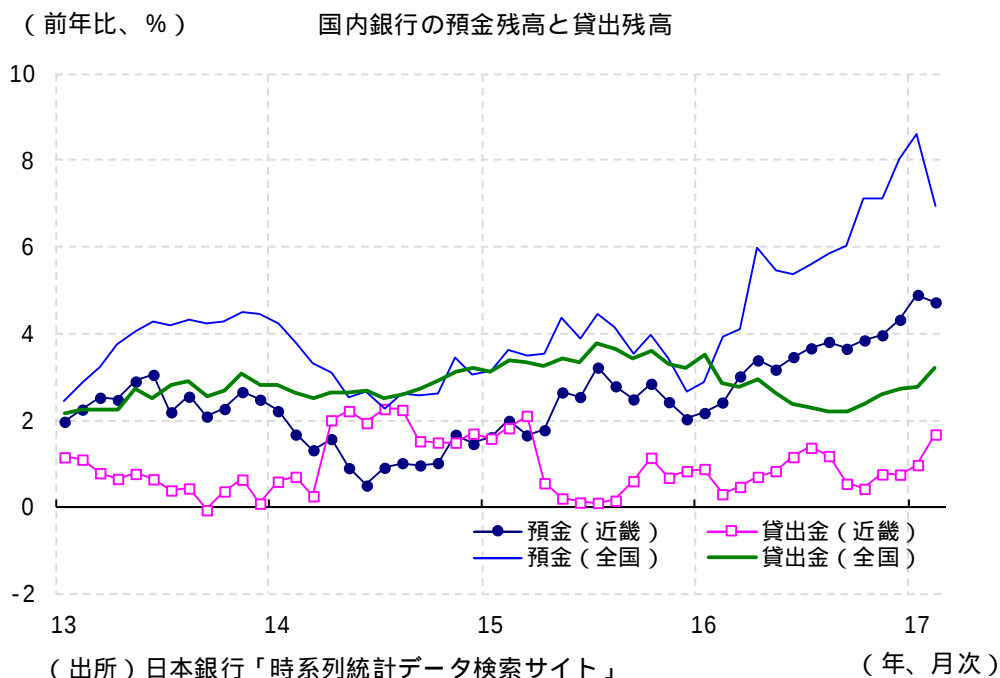
10. 物価 ~ 横ばい

○2月の近畿圏の消費者物価は、生鮮食品を除く総合が前年比-0.1%と11ヶ月連続で低下したが、ほぼ横ばいとなっている。食料品価格は上昇したが、エネルギー価格は下落している。食料・エネルギーを除く総合は同-0.2%と2ヶ月ぶりに低下した。今後については、エネルギー価格が上昇に転ずることや円安による輸入物価上昇の影響もあって、消費者物価の前年比はプラスに転ずる見込みである。



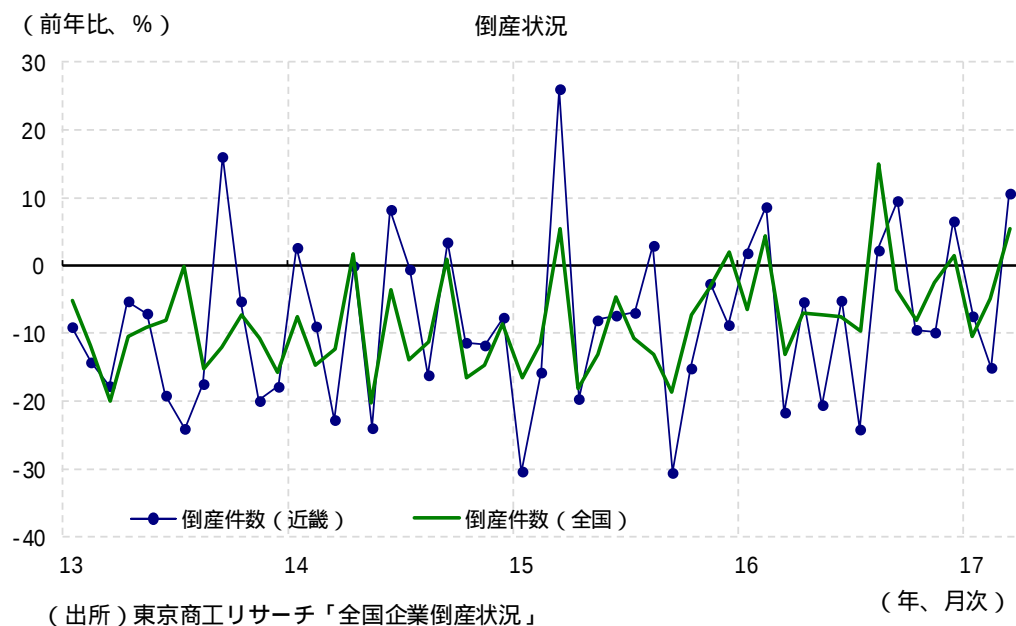
11. 金融 ～ 預金、貸出ともに増加

○2月の近畿地区の預金残高(国内銀行ベース)は、前年比+4.7%の113.8兆円となった。定期性預金は減少が続いているが、要求払預金が増加している。また、近畿地区の2月の貸出残高(国内銀行ベース)は、同+1.7%の61.0兆円となった。日銀大阪支店では、企業向けや住宅ローンの増加等が貸出の増加要因とみている。



12. 倒産 ～ 倒産件数は増加、負債総額は減少

○3月の近畿地区の倒産件数は、前年比+10.7%の197件(前年同月178件)と3ヶ月ぶりに増加した。府県別では、滋賀は5件(同6件)、兵庫は33件(同39件)、和歌山は6件(同10件)と減少したが、京都は26件(同15件)、大阪は119件(同102件)、奈良は8件(同6件)と増加した。一方、倒産企業の負債総額は、同-67.1%の164億円と2ヶ月ぶりに減少した。



【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗	☁	↗		全国	↗	☁	↗
	東海	→	☁	→	輸出	東海	↗	☁	↗
	関西	↗	☁	↗		関西	↗	☁	↗
個人消費	全国	→	☁	→		全国	→	☁	→
	東海	→	☁	→	輸入	東海	→	☁	→
	関西	→	☁	→		関西	→	☁	→
住宅投資	全国	↘	☁	→		全国	↗	☁	↗
	東海	→	☁	→	生産	東海	→	☁☀	→
	関西	↗	☁	→		関西	↗	☁☀	↗
設備投資	全国	↗	☁	↗		全国	↗	☀	→
	東海	↗	☁	↗	雇用	東海	→	☁	→
	関西	↗	☁☔	↗		関西	↗	☁	→
公共投資	全国	↘	☁	↗		全国	→	☔	→
	東海	↘	☁	→	賃金	東海	→	☁	→
	関西	↗	☁	↗		関西	→	☔	→



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す

2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す

3. 全国は4月4日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		3月のコメント	4月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる	横ばい圏で推移しているが、一部に持ち直しの動きが見られる
	関西	持ち直しの動きが見られる	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに持ち直している	持ち直している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
5. 個人消費	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移しているが、一部に弱い動き	横ばい圏で推移している
6. 住宅投資	全国	緩やかに減少している	緩やかに減少している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	非製造業を中心に増加している	非製造業を中心に増加している
	関西	製造業を中心に持ち直しの動きが見られる	製造業を中心に持ち直しの動きが見られる
8. 公共投資	全国	減少している	減少している
	東海	基調は弱含みだが足下で増加	基調は弱含みだが足下で増加
	関西	基調は増加しているが、足下で減少	基調は増加しているが、足下で減少
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直している、輸入は横ばい圏で推移している	輸出は持ち直している、輸入は横ばい圏で推移している
	東海	輸出は持ち直しの動きが一服、輸入は横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい
	関西	輸出、輸入ともに横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい
10. 物価	全国	企業物価、消費者物価とも緩やかに上昇	企業物価、消費者物価とも緩やかに上昇
	東海	横ばい	横ばい
	関西	横ばい	横ばい
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数は減少、負債総額は増加

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る関西経済」の見方

【今月の景気判断】

- レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

- 3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。
- 現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。
- ～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

- 各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

- 全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。
- 右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

- 景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

- 当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

- 発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び東海地区との比較】

- 【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。